

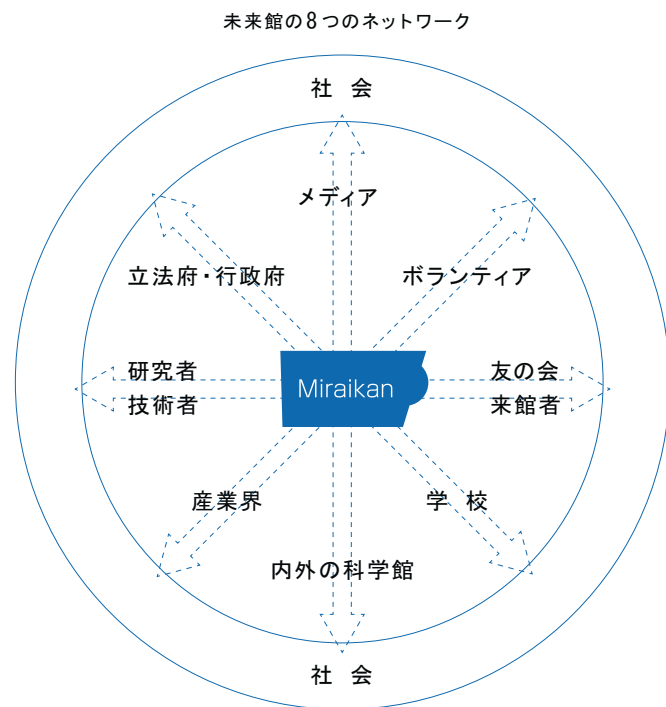
社会の中に先端科学技術の知識や考え方が浸透し、一般市民一人ひとりが人間社会と科学技術のあり方について考え、未来を視野に入れて歩いていくこと。それが未来館の目指す社会である。そのような社会の実現のために重視しているのが、研究者・技術者、学校、国内外の科学館、ボランティア、友の会・来館者、産業界、メディア、立法府・行政府、という、8つのカテゴリーの組織や人々。未来館ではこの8つを未来館の活動と社会をつなぐインターフェイスととらえ、つながりを強化するとともに、それらを媒介として未来館の活動を一般社会へ広げていくことをめざしている。

平成20年度においても、新規常設展示、企画展、イベントをはじめとする未来館の企画開発に、多数の研究者・技術者が関わっている(P45、P53)。また、産業界とはパートナーシップ制度による協力関係を結び、科学技術への理解を社会に伝えていく活動を共同で展開することができた(P42)。海外の科学館とは、交流と協力体制の強化に取り組んでいる。国際会議にも参加し、活発な発表や意見交換を行なった(P40)。

さらに20年度も「全国科学館連携協議会」の事務局を務め、国内科学館の活動を支援するとともに(P38)、全国の学校と研究機関との連携活動のコーディネート役を果たし、地域での自律的な科学コミュニケーションの実施を促進するという大きな成果をあげた(P37)。

そのような多岐に渡る未来館の活動を社会に広めていくために重要なのが、メディア、ボランティア、来館者、友の会会員とのつながりである。社会に大きな影響力をもつメディアに対しては、未来館の情報をいち早く提供し、より効果的に未来館の活動を社会に伝えている(P43)。展示フロアやイベントなどで重要な役割を果たしているボランティアは、それぞれのスキルや経験を活かして積極的に活動の場を広げた(P40)。また友の会会員には、数多くのイベントや新システムなどを導入し、一層の連携強化をはかった(P41)。

このように8つのすべてネットワーク先が未来館にとってのパートナーであり、ともに活動することで先端科学技術の知識や考え方を、広く社会と共有することを目指している。



## 学校とのつながり

### 平成20年度の特徴

館内・館外・地域での連携活動を通して、学校教育で科学技術を活用するために有用なプログラムをスーパーサイエンスハイスクール(SSH)などと連携して開発・実施を行っている。20年度は、これまでに開発した各地域で学校や科学館、研究者などによる科学教育連携活動について、地域での自律的な実施を促進した。さらに、Webサイト「Mirai-kan先生ネット」のリニューアルを行った。

### 主な活動

#### 未来館を活用した学習プログラムの普及<館内>

対話を促進し、展示の前でのプレゼンテーションに発展させる学習プログラムの活用の拡大を図った。未来館の資源を活用した職場体験学習も実施した。

参加人数: のべ131校、6,982人

#### 地域における自律的な科学教育連携活動の促進<館外>

(1) 訪問講義の実施  
科学プレゼンテーションの指導法を開発しSSHなどへの訪問講義を行った。教員参加や英語科学プレゼンテーションに発展させるコーディネートにも取り組んだ。

参加人数: のべ55校、3,180人

(2) 学校や科学館、研究者などによる自律的な科学教育連携活動の促進  
① 研究者と学校の交流機会への協力[科学を深める]  
学会などが主催する、研究者との交流を通して科学技術について興味関心や理解を深める「高校生シンポジウム」などの企画実施に協力した。

時期: 平成20年5月～9月(計5件)

参加人数: 375人

協力: (社)プラズマ・核融合学会/日本地球惑星科学連合/ブリティッシュ・カウンシル/国立淡路青少年交流の家/国立阿蘇青少年交流の家

② 地域における小中高の科学連携活動の促進[地域に広げる]

SSHなどや教育委員会、地域科学館などの連携により、高校生が小中

学生に科学の面白さを紹介する交流イベントの企画実施に協力した。

時期: 通年

参加人数: 6,917人(計11件)

協力: 埼玉県教育委員会/さいたま市教育委員会/埼玉県立川越高等学校/埼玉県立川越女子高等学校/埼玉県立川越南高等学校/東京都立科学技術高等学校、他

③ 教員向けイベント

科学教育連携活動を活性化するため、高校生や教員が集い情報共有する「科学教育連携シンポジウム」などを開催した。また、(社)応用物理学会の教員向けイベントに協力した。

時期: 平成20年8月

参加人数: 508人(計3件)

### 教員研修

理科部会や教育委員会が主催する1日～数日(シリーズ)の多様な研修の実施に協力した。また、教員向けWebサイト「Mirai-kan先生ネット」をリニューアルした。

時期: 通年

参加人数: 610人(計23件)

先生ネット会員ページ登録人数: 444人(平成21年3月末現在)

● 担当スタッフ: 岡野麻衣子、長田純佳(科学コミュニケーション推進室)



科学館を活用したJr.解説員(静岡)



高校生による科学実験教室(川越)

## 国内科学館 とのつながり

### 平成20年度の特徴

全国各地域の科学コミュニケーション活動を促進するためには、全国の科学館がその拠点となる必要がある。このために科学館、学校、大学・研究機関、企業等と連携し、科学館スタッフの育成や科学館相互のネットワークづくりの推進に取り組んだ。

### 主な活動

#### 地域科学館の活性化

地域科学館において、未来館のノウハウを活用したプログラムの開発を行った。科学コミュニケーション、学校向けプログラムに関する講義・実習など、多岐にわたる活動を行った。

科学館を拠点とした「科学教育連携ネットワーク」づくりの推進  
地域の科学館と学校・研究者などとの連携活動の活性化を目指し、これまで開発した「Jr.解説員」などの連携プログラムの普及活動に取り組んだ。また、科学館における科学コミュニケーションや学校連携をテーマに、職員研修に協力した。さらに、科学館同士や研究者などとの交流を促進するため、全国科学館連携協議会（連携協）総会において「未来館セッション」を開催した。

開催場所：  
[Jr.解説員] 静岡科学館る・く・る／倉敷科学センター／郡山市ふれあい科学館  
[職員研修] 連携協九州ブロック研修（大淀川学習館）／静岡科学館る・く・る

貸出展示のコーディネート  
より多くの人々に先端科学技術を身近に感じ、興味を深めてもらう機会として、研究機関が提供する科学関係の展示物を全国の地域科学館に巡回した（一部、連携協共催）。

毛利宇宙飛行士の部屋	ディスカバリーパーク焼津／ハケ岳自然文化園／二戸市シビックセンター／能代エナジウムパーク／でんきの科学館／愛媛総合科学博物館／京都市青少年科学センター／ぐんまこどもの国児童館／日立シビックセンター
バイオメディカル写真展	神戸市青少年科学館／兵庫県立人と自然の博物館／自然科学学習館／サイエンスワールド／旭川市科学館／ガーデンモール彩都／富士川楽座
しんかい6500	NIFS科学館／岩見沢郷土科学館／アクアトム／郡山市ふれあい科学館／出雲科学館／佐久市子ども未来館／高崎市少年科学館
はじめての海の科学	岩見沢郷土科学館／アクアトム／郡山市ふれあい科学館／NIFS科学館／佐賀県立宇宙科学館／オホーツク流水科学センター／雲仙岳災害記念館／大洗わくわく科学館／出雲科学館

地震の巣を解明せよ！	多摩六都科学館／NIFS科学館／岩見沢郷土科学館／出雲科学館／アクアトム／あすたむらんど徳島／釧路市こども遊学館／雲仙岳災害記念館／郡山市ふれあい科学館
日本の宇宙科学の歴史	ディスカバリーパーク焼津／さシアストロパーク／明石市立天文科学館／釧路市こども遊学館／アクアトム／宮崎科学技術館
太陽のふしぎ	郡山市ふれあい科学館／宮崎科学技術館／さシアストロパーク／綾部市天文館／大洗わくわく科学館／岩見沢郷土科学館／アクアトム
月のふしぎ	ハケ岳自然文化園／上田創造館／釧路市こども遊学館／岩見沢郷土科学館／能美市根上学習センター／郡山市ふれあい科学館／佐久市子ども未来館／綾部市天文館

協力：宇宙航空開発研究機構、海洋研究開発機構

#### 全国科学館連携協議会事務局

全国の科学館など、約180団体が加盟している「全国科学館連携協議会」の事務局をつとめた。

国内科学館職員研修 平成21年3月5日～6日  
加盟会員（主に科学館スタッフ）を対象に、「イベントの開発、表現手法」「展示の開発手法」「運営上の工夫」をテーマとした研修を行った。

開催場所：日本科学未来館／千葉市科学館  
協力：千葉市科学館／海洋研究開発機構  
参加人数：45団体、91名

協賛物品提供のコーディネート  
日立マクセル株式会社とマブチモーター株式会社の2社から物品（乾電池および工作用モーター）の無償提供を受け、その物品を加盟会員（希望者）へ配布した。

科学館向け情報共有の推進  
加盟会員同士の情報共有ツールとして、メーリングリスト整備し、運用を開始した。

● 担当スタッフ：榎野貴子、長田純佳（科学コミュニケーション推進室）／小山彩子、岡野麻衣子、清水齊志（アウトリーチ展開業務室）／今井誠（ミュージアム運営業務室）



## 海外科学館 とのつながり

### 平成20年度の特徴

地域、国内、そして国際社会における科学館の役割と責任について、世界の科学館と問題点や課題を共有、議論し、ともに発展していくために、未来館は積極的に海外の科学館や科学関係機関との交流と協力体制の強化に取り組んでいる。企画展の海外巡回にも注力し、中国国内4都市における長期的な巡回や、香港への貸し出しなどが実現した。また、大型映像の初の海外配給が実現するなど、未来館の活動が世界に一層広がった（詳細はP25・26を参照）。

### 主な活動

#### オーストラリア国立科学技術館（クエスタコン） [The National Science and Technology Centre (Questacon)]の開館20周年記念イベントへの協力

オーストラリア国立科学技術館（クエスタコン）の開館20周年を記念し、年間を通して展開されたさまざまな交流イベントに未来館が協力参加した。

時期：平成20年7月7日～11日  
場所：キャンベラ  
内容：オーストラリア全国から選抜された30名の中学・高校生が集う「スマートムーブ発明会議（Questacon, Smart Moves Program - Invention Convention）」へ、日本人高校生が招待され、クエスタコンと協力関係を結んでいる未来館が、日本人高校生派遣のコーディネートを行った。未来館と連携活動を行っているスーパーサイエンスハイスクール（SSH）より高校生2名を選抜し、未来館スタッフの同行で発明会議に参加した。オーストラリアの若手発明家や企業家の指導のもとに、発明のプロセスやアイデアの商品化に関わる各種ワークショップを体験した。

日程：平成20年10月14日、15日、16日  
場所：キャンベラ、ホバート  
内容：館長の毛利衛が記念スピーチや講演を行った。

● 担当スタッフ：岡野麻衣子（科学コミュニケーション推進室）／柴崎宣子（広報・国際渉外室）  
● 協力：静岡北高等学校／立命館高等学校

### 国際会議

第5回世界科学館会議（5th Science Centre World Congress）平成20年6月15日～20日  
オンタリオ・サイエンスセンター（Ontario Science Centre）（カナダ）で開催。3年毎に開催される世界レベルの科学館会議。未来館からは、館長の毛利衛が本会議のセッション「Frontiers of Science」において、世界の科学館を代表する4名の科学館館長の一人として招かれ、未来館の例を挙げながら、地域、国内、世界における科学館のあり方についてのメッセージを発信した。また、科学館評価に関するセッションで、未来館スタッフがモデレーターとして活躍した。

ASPAC 年次総会 平成20年4月2日～5日  
バンコック（タイ）の国立科学館で開催。アジア環太平洋地域を中心に、北米や欧州の科学館も参加する国際色豊かな科学館会議。未来館は、館長以下スタッフ6名が参加。巡回展や人材育成の取り組みについて紹介したほか、先端的な科学コミュニケーション活動の事例を発表。中でも、会場と南極・昭和基地をテレビ会議で繋いだセッションは注目を浴びた。参加者は17カ国、約150名。

ECSTIE 年次総会 平成20年5月29日～31日  
ブダペスト（ハンガリー）のハンガリー自然博物館で開催。欧州中心の科学館・博物館ネットワーク。未来館からは、副館長以下スタッフ2名で参加。巡回展を紹介した他、各種セッションで意見交換を行った。参加者は40カ国以上、約800人。

ASTC 年次総会 平成20年10月18日～21日  
フィラデルフィア（米国）のフランクリン協会科学博物館で開催。北米を中心とした科学館・博物館ネットワーク会議。多岐にわたる議題が約100ものセッションで構成されており、未来館からは、副館長以下スタッフ3名が参加。ミネソタ科学館（米国）がリーダーを務めるセッション「研究者と科学館の協力関係」への参加依頼に応え、未来館の科学コミュニケーションが未来館での事例を発表した。参加者は、30国以上、約1,800人。

● 担当スタッフ：柴崎宣子（広報・国際渉外室）



ASPAC 2008 年次総会

## ボランティア とのつながり

### 平成20年度の特徴

3つの活動カテゴリーでボランティア活動を展開。意欲的なボランティアのスキルや活動経験を発揮し多様な活動を行なった。特徴として、スタッフボランティア活動では、委嘱契約を結んだ3名が科学コミュニケーターのシフトで展示解説を行った。レギュラーボランティア活動では、個々の活動のほか、チームを組みさまざまな活動を行った。日本人ノーベル化学賞受賞者の業績をテーマとする実演チームは平成15年から累計実施2,500回を達成し、さらに実演ノウハウをいかして「サイエンス・プレゼンテーション2008」で優勝を果たした。サテライトボランティア活動では、遠隔地居住者が夏休みに活動するなど、各人に応じた活動を行った。

### 平成20年度総計

活動実績のべ人数:9,794名

活動時間:64,771時間

### 主な活動

#### ボランティアイベント活動

ボランティアイベント(友の会イベントを含む)18プログラムを企画・実施したほか、ボランティアと研究者との連携による研究棟ツアーでは、新規研究室(ATP合成制御プロジェクト)、「子どもの事故予防工学プロジェクト」を含む全4ツアーを実施した。なお、平成14年から継続する「ナノスペースプロジェクト」ツアーは累計実施150回を達成した。

#### アウトリーチ活動

財団法人秋田県資源技術開発機構より講師派遣依頼をうけ、「第5回産業観光案内養成講座」にてボランティア活動をテーマにボランティア2名が出張講義を行った。また、科学コミュニケーターとともに理化学研究所一般公開などへの協力を行った。

#### スキルアップ研修

展示改修に伴い、国際宇宙ステーション、技術革新と未来に関する展示研修会、バスツアーでの那珂核融合研究所見学会、JAXA研究者によるセミナー、応急救護訓練などのスキルアップ研修を実施した。

### 平成20年度における主なボランティア活動一覧

実施時期	イベント内容
4月	研究棟ツアー新規2ツアー開始 実験屋台「回路コース」
5月	実験屋台「電磁気コース」
6月	第26期新人ボランティア研修 実験屋台「ロボットコース」
7月	理化学研究所横浜研究所一般公開イベント「科学ウルトラクイズ」運営協力 応急救護訓練
8月	横浜市都筑区青少年先端技術体験講座「消える!発泡スチロールはどこへ」運営協力 サマーナイトミュージアム(オリジナルTシャツで活動) 友の会イベント「スニップって何!?!」 夏のボランティアイベント「空を飛ばしたい!」 「ソーラーVSマンパワー!君は太陽に勝てるか!」 「みらいカンデニュートリノをキャッチせよ!」 実験屋台「電磁気コース」 ボランティア情報交換会
9月	実験屋台「環境コース」 友の会イベント「真空のふしぎな世界」 「ウラム irakan ツアー」,「じょうずに作ろう、エネルギー」
10月	第27期新人ボランティア研修
11月	サイエンスアゴラ2008 運営協力
12月	実験屋台「ロボットコース」
1月	独立行政法人日本原子力研究開発機構 那珂核融合研究所見学会 秋田県「第5回産業観光案内養成講座」出張講義 実験屋台「電磁気コース」
2月	第28期新人ボランティア研修 スタッフボランティア活動報告会
3月	友の会DAYでのボランティアイベント「ウラム irakan ツアー」,「ノーベル化学ショー」,「ちょっとサイエンス」 実験屋台「環境コース」 スキルアップセミナー「宇宙食の過去・現在・未来」 「客室乗務員の経験談から学ぶ接遇」 平成20年度ボランティア表彰式 ボランティア情報交換会

●担当スタッフ:原育美、菅野和彦、福永朋子、中峯宏介(科学コミュニケーション推進室)



研究棟ツアー「ATP合成制御プロジェクト」



那珂核融合研究所見学会

## 友の会・来館者 とのつながり

### 平成20年度の特徴

友の会会員に対しては、「プラス会員」の満足度向上を目的として「ドームシアター事前予約システム」を新たに導入した。会員向けイベントでは、外部連携機関が開発する教材のモニター体験イベントを新たに実施したほか、地球深部探査船「ちきゅう」乗船体験ツアーをはじめとする「リアル・ラボ」シリーズ、研究機関や企業による多数の展覧プログラムを展開した「友の会DAY」の開催に力を入れた。

一般来館者に対しては、顧客ニーズを運営に反映させるため、出口調査やグループインタビューにより未来館顧客の属性を把握した。この調査結果をふまえ、展示開発や展示フロアの改善に向けた取り組みを始めた。

### 友の会会員に向けての主な活動

#### 「プラス会員」の運用

第1期「プラス会員」への満足度調査等の結果を踏まえ、「ドームシアター事前予約システム」の導入などのサービス改善を行い、コアな会員層(第2期「プラス会員」:第1期から約40%増の1,091名)を確保した。

#### 会員限定イベント

館内での活動に加え、地球深部探査船「ちきゅう」の乗船体験イベントやオーロラ観察ツアーなど、館外における研究者とのコミュニケーションの機会を年間11回提供した。また、全館的な規模で開催した「友の会DAY」を自由参加形式で実施することにより、イベントを体験した会員数を大幅に増やすことができた。(イベント開催数:177回、参加者数:12,597名)

#### 平成20年度会員向けイベントの連携先

大型放射光施設(SPring-8)、兵庫県立西はりま天文台、(独)製品評価技術基盤機構、芝浦工業大学生涯学習センター、日本航空(株)、(独)宇宙航空研究開発機構、はばたけ夢サイエンスクラブ、読売新聞社、ブリティッシュ・カウンシル、神奈川工科大学、東京大学大学院農学生命科学研究科、中央大学理工学部情報工学科、日本女子大学理学部数物科学科、(社)応用物理学会、東京工業大学大学院情報理工学系研究科、東京大学大学院情報理工学系研究科、バイエル(株)、NPO Science

Station、(社)電子情報通信学会、トヨタ自動車(株)、トヨタ技術会、(独)産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター、(独)海洋研究開発機構、本田技研工業(株)、モビリティランド(株)、(株)ミックス、東京都立科学技術高等学校、茨城大学遺伝子実験施設、NPO 法人くらしとバイオプラザ21、日本学術会議、シャープ(株) 新日本石油(株)、(独)農業環境技術研究所、(有)ラド、サントリー(株)、アップルジャパン(株)、(独)農業生物資源研究所、アラスカ大学、アラスカ国際北極圏研究センター、北海道大学大学院情報科学研究科、NPO キッズデザイン協議会、旭化成(株)、(株)リソー教育グループ、(独)防災科学技術研究所、筑波大学、多摩美術大学、早稲田大学理工学術院、(株)国際電気通信基礎技術研究所音声言語コミュニケーション研究所、大阪大学産業科学研究所、東京大学生産技術研究所 知の社会浸透ユニット、(社)日本機械学会、気象庁、(財)日本気象協会、NPO 気象キャスターネットワーク、(株)サイエンス・ラボ、(有)トゥールース・アカデミー

#### 会員への情報提供

会報「みらいくん」第27号~30号を発行(平成20年6月、9月、12月、平成21年3月)した。また、「友の会Eメールリスト」(登録数:約5,100件)への情報発信を計26回行った。

●担当スタッフ:原育美、鶴ヶ崎勝、秋田博文(科学コミュニケーション推進室)



地球深部探査船「ちきゅう」乗船体験ツアー

## 産業界 とのつながり

### 平成20年度の特徴

パートナーシップ企業より、未来館の通常業務に対しご支援いただいた。また、館内各室との連携を強化し、サイエンスアゴラや友の会DAY、来館時の特別実験教室開催等でパートナー企業との協働の場を拡大した。

### 企業とのパートナーシップ

#### オフィシャル パートナー

【プラチナ】株式会社リコー

【ゴールド】株式会社リソー教育

【シルバー】旭化成株式会社

株式会社NTTドコモ

九州電力株式会社

トップツアー株式会社

日立マクセル株式会社

#### パートナー

株式会社岡村製作所

大塚製薬株式会社

#### オフィシャル サプライヤー

レゴジャパン株式会社

千葉工業大学

株式会社岡村製作所

有限会社ラド

#### その他

ヒューマノイドロボットを来館者が身近に感じる実演用に、本田技研工業株式会社からASMO (ver.2.0)のほか、静態展示用にASMO (ver.1.5)の有償貸与をいただいた。また、匿名

4社からいただいた寄附金によりリース導入した水素自動車を、19年度に引き続き、日常業務に供した。

### 主な活動

開催日	タイトル	企画企業名
H20/8/4～31	紙で伝えよう～コピー機の世界展	株式会社リコー
H20/8/11.18	スクールツアーシップ DNAの不思議に迫ろう!!	株式会社リソー教育
H20/11/22 ～24	お子様の知性バランスを知る知性 チェックプログラム(サイエンスアゴラ)	株式会社リソー教育
H20/11/24	総括セッション～未来の地球 日本からの提案(サイエンスアゴラ)	旭化成株式会社
H20/11/22 ～24	レゴブロックで地球環境と科学を考 える!!(サイエンスアゴラ)	レゴジャパン株式会社 レゴエデュケーション
H20/11/23	自然放射線の飛跡を見てみよう! (サイエンスアゴラ)	有限会社ラド
H21/2/14.15	FRST LEGO League 2008	レゴジャパン株式会社 レゴエデュケーション
H21/3/20 ～22	知性バランスをチェックしよう! (友の会DAY)	株式会社リソー教育
H21/3/22	放射線って何? 霧箱で実験しよう! (友の会DAY)	有限会社ラド
H21/3/20 ～22	自由研究コンテスト2008 (友の会DAY)	旭化成株式会社
H21/3/30、 4/3	スクールツアーシップ ホテルはどう やって光るの? 生物の神秘にせまる!!	株式会社リソー教育
H21/3/25	友の会 研究所見学 「旭化成ホームズ・住宅総合技術研究所」	旭化成株式会社 旭化成ホームズ株式会社
H21/1/30	未来館監修サイエンストリップ 「上海皆既日食観測ツアー」募集開始	トップツアー株式会社

● 担当スタッフ: 中田譲、谷平秀徳、田中真一、羽田野佳子(総合調整室)



株式会社リコー  
「紙で伝えよう～コピー機の世界展」



株式会社リソー教育ワークショップ「ホテルは  
どうやって光るの? 生物の神秘にせまる!!」

## メディア とのつながり

### 平成20年度の特徴

メディアと連携した企画展を開催し、企画段階より共同して露出効果を最大限に生かすような番組制作や広告制作、記事連載などを実施。一般社会と先端科学技術をつなぐ未来館の存在意義を、メディアを通してアピールし、大きな成果を得ることができた。各常設展示のリニューアルに際しては、継続的な取材誘致をはかるためプレス内覧会や懇談会を随時開催し、メディアとの連携強化を図った。新たな試みとしては、幼稚園児とその親を対象とした媒体とタイアップし、新規顧客層をターゲットとしたイベントも実施した。イベント開催時には、ターゲットのニーズと動向調査を実施、館内各所へフィードバックし、今後のイベント立案・実施に反映できる情報源としても活用できる仕組みづくりを行った。

日常の密接なメディアリレーション活動の結果、メディアの中での未来館の存在感が高まり、日本人ノーベル賞受賞の際には、受賞内容や科学的内容についての質問、取材の依頼などが多数あった。ホームページについてはリニューアルを行い、企業や学校団体などとの連携強化を目的としたページ「未来館とつながる」を新設。エイリアン展の特設サイトでは、地球外生命の存在についてYES、NOで投票する読者参加型コンテンツを制作し、その結果自体がニュースとして新聞掲載されるなど、話題づくりにつながった。

### 主な活動

#### 企画展「エイリアン展」広報活動

① メディア露出件数: 427件  
TBS「噂の! 東京マガジン」(4月6日放送)、毎日小学生新聞(4月26日掲載)、テレビ東京「出没! アド街ック天国」(5月3日放送)、J-WAVE「GOOD MORNING TOKYO」(5月22日放送)、ほか。

② 映画タイアッププロモーション  
地球外生命に関連して、ソニーピクチャーズエンタテインメント配給の映画「ミラクル7号」と共同プロモーション、6月3日には記者発表会

を実施し、約150名のメディア関係者が来館した。映画関係媒体などでの企画展の告知を多数獲得した。

#### 企画展「世界最大の翼竜展」広報活動

① メディア露出件数: 302件  
朝日新聞 展覧会連載記事9回(6月3～14日)、日本テレビ「ラジかるッ」(8月28日放送)、Yahoo!トップページに骨格組立風景(6月26日掲載)、ほか

② ナイトツアー: 平成20年7月22日開催  
未来館友の会および朝日新聞アスパラクラブ会員を対象に閉館後の時間帯で実施、通常とは異なる雰囲気での見学と専門家によるガイドツアーを行った。

#### 常設展「Atomos」広報活動

メディア露出件数: 137件(平成21年3月31日まで)  
プレス内覧会・懇談会: 12月22日開催、出席者: 31社55名  
Atomosの導入に伴い、プレス内覧会、懇談会を実施。多くの掲載実績を得たほか、メディア関係者が多数視察したことにより、未来館の活動が社会的に発言力のあるインフルエンサーへ口コミでも広まり、新たな未来館とのつながりを得ることができた。

#### 『あんふあん』タイアップイベント(平成21年1月5日)

掲載: あんふあんぶる(WEBサイト)での告知、あんふあん本紙でのイベント報告  
親子で科学を楽しんでもらうことを目的とし、幼稚園児とその親を対象とした媒体「あんふあん」とのタイアップイベントにて立体視映像番組「パースデイ」の特別先行試写会を開催。「子どもの科学への興味が広がった」との好評を得たほか、「パースデイ」のみならず未来館の活動に対して親子参加のニーズが広がった。今後も、定期的にイベントを展開予定。  
参加人数: 72名(大人: 38名、子供: 34名)

#### チャールズ皇太子来館に伴うプレス対応(平成20年10月28日来館)

メディア露出件数: 86件  
スーパーJチャンネル、スーパーニュース、NEWS ZERO(10月28日放送)、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞、各地方紙(10月29日掲載)、The Nknews(11月3日掲載)、ほか  
UK-JAPAN 2008の一環で、チャールズ皇太子が来館。皇太子による地球環境に関する講演もあり、多数の国内外メディアの取材があった。

● スタッフ: 富田知宏、米山智夏、神宮里江、吉田俊子、林秀一郎、下山道生、柴崎宣子(広報・国際渉外室)

## メディアに取り上げられた未来館【主な新聞・雑誌記事・テレビ放送番組一覧】

媒体社名	媒体名	内容	放送日・掲載日
中日新聞社	東京新聞	「生殖細胞のふしぎな旅」というテーマで、科学コミュニケーターの黒川鑑美が執筆（毎月1回 科学コミュニケーターが交代で執筆）	H 20 / 4 / 15
日本経済新聞社	日本経済新聞（夕刊）	「タ&Eye」のコーナーにて、ボランティア活動の様子を紹介	H 20 / 4 / 17
静岡新聞社	静岡こどもかがく新聞	「日本科学未来館 納得科学ニュース」のコーナーにて、「微生物が石油をつくる 相良油田のみみつ」というタイトルで、科学コミュニケーターの森田由子が執筆（毎月1回 科学コミュニケーターが交代で執筆）	H 20 / 4 / 16
NHK	サイエンスZERO	ミュージアムのトレンドの特集で、未来館の医療のコーナー、および制作を担当した潮田陽子・菅原剛彦をとりあげて、展示制作現場の現状を紹介	H 20 / 4 / 19
テレビ東京	出沒！アド街ック天国	お台場特集にて、未来館、およびエイリアン展を紹介	H 20 / 5 / 3
読売新聞社	読売新聞	夜間の博物館・美術館を楽しむサービスとして東海大学自然史博物館・三井記念美術館と共に未来館を紹介	H 20 / 7 / 4
日本経済新聞社	日本経済新聞	「『生きる力』をはぐくむ夏休み」というテーマで、父子の夏休み体験の重要性について館長毛利衛のコメント	H 20 / 7 / 22
中日新聞社	東京新聞	来館者500万人達成の紹介（その他、朝日新聞、産経新聞、The Japan Times、フジサンケイビジネスイ、地方紙等にて紹介）	H 20 / 8 / 27
日本テレビ	ラジかるっ！	「世界最大の翼竜展」を会場からの生中継で紹介	H 20 / 8 / 28
朝日新聞社	朝日新聞（夕刊）	「頭がよくなる!？」のコーナーにて、国際宇宙ステーションを体験できる場所として、未来館の常設展示「こちら、国際宇宙ステーション(ISS)」を紹介	H 20 / 9 / 6
科学新聞社	科学新聞	「科学とアートの融合企画」として、アースラウンジを紹介	H 20 / 9 / 12
日本経済新聞社	日本経済新聞	ノーベル物理学賞受賞に関連して、実演をする科学コミュニケーターの様子を紹介	H 20 / 10 / 10
幻冬舎	GOETHE	「科学技術が地球の未来にできること」というタイトルで、芝浦工業大学の柘植学長と館長毛利衛が対談	H 20 / 10 / 24
フジテレビ	スーパーニュース	チャールズ皇太子来館の様相を紹介（その他、NEWS ZERO、FNNレインボー発、スーパーJチャンネル、日テレNEWS24、日本経済新聞、東京新聞、サンケイエクスプレス、地方紙等でも紹介）	H 20 / 10 / 28
The Japan Times	The Japan Times	イベント「Tasting & Testing 科学で味わうポジョレー・ヌーボー」の様相をレポート	H 20 / 12 / 21
産経新聞社	産経新聞	1月4日に開催されたAtomosの先行上映イベントの様子を紹介。1月10日より一般公開の旨告知	H 21 / 1 / 5
マガジンハウス	CASA BRUTUS	「春休みに子供と行きたい博物館」の特集で、未来館を紹介	H 21 / 2 / 10
サンケイリビング新聞社	あんふぁん	あんふぁんと未来館の春のタイアップイベント告知。および、1月5日に開催したあんふぁん読者限定ドーム上映会のイベント報告の掲載。館長からのメッセージも掲載	H 21 / 3 / 6
日経BP	日経キッズプラス	全国の科学館を約30館紹介する特集にて、「ハンズオン展示がすごい科学館」として、未来館を紹介	H 21 / 3 / 18
毎日新聞社	毎日新聞	3月25日に開催されたノーベル物理学者と子供たちの交流イベントの様相を紹介	H 21 / 3 / 31

研究者・技術者  
とのつながり

## 平成20年度の特徴

日本科学未来館は展示の企画開発に際して、現在活躍する研究者や技術者が関わることで、先端の科学技術に関する情報の発信と人の交流のための拠点となっている。また、研究機関や大学と展示企画の共同開発や人員の相互交流などを通じた連携を図っている。

## 学術研究相互協力に関する協定書(MOU:Memorandum of Understanding)の締結

平成20年12月4日 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台

科学コミュニケーション手法開発に関する相互協力や、展示物の相互協力や共同開発などを行う。

平成20年12月19日 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所

市民、子どもへの科学研究成果の理解増進や、立体映像やドーム映像など科学コミュニケーション手法に関する共同開発・共同研究などを行う。

## 教育研究協力に関する協定書の締結

平成20年11月21日 芝浦工業大学

芝浦工業大学大学院工学研究科における教育研究活動の一層の充実を図るとともに、日本科学未来館の科学コミュニケーション活動の推進及びその成果の普及を推進する。

※未来館関わった主な研究者・技術者・研究機関はP53参照

立法府・行政府  
とのつながり

科学技術基本計画などの国の施策を日本科学未来館の幅広い活動において、いかに実現していくかを検討・実施している。また、日本科学未来館の活動について年度毎、中期計画期間(5年間)毎の目標を設定し、その結果について毎年度報告を行い国からの評価を受けている。なお、その特徴的な活動により、国内外の立法府・行政府関連の視察者が多数訪れている。

※立法府・行政府関連の視察者は、P54参照